



人権尊重を基盤として
これからの時代を生き抜く
心優しくたくましい
岡見っ子の育成



子どもが作る”弁当の日”

11月14日(木)

この日は参観日でした。自分が使っている弁当箱を学校に持って来て、弁当箱の大きさを量りました。弁当箱に水を入れて、入った水の量で自分の弁当箱の容積を確認しました。



思ったより
たくさん入るな～



12月2日(月)

いよいよ”弁当の日”当日です。子供たちは思い思いの弁当を”手作り”して持ってきました。

子供たち・・・なかなかやると思いませんか。

自分で作った弁当を手にした子供たちは、自信と満足感に満ちた顔をしていました。



おそらく当日の朝は、お家の方にとって、いつも以上にあたたかい朝になったのではないかと思います。5・6年生の保護者のみな様、ご理解・ご協力、ありがとうございます。

作るのは時間がかかるけど、
食べるのはあっという間



12月2日(月)5・6年生が「子供が作る”弁当の日”」に挑戦しました。いつもはお家の人に作ってもらっている弁当を自分自身で作るというものです。

5・6年生の児童は、栄養教諭の水野先生と一緒に、弁当作りに向けて学習を重ねて来ました。今回は、その学習の様子について紹介します。

11月21日(木)

今度は、給食を自分の弁当箱に詰めてみました。ごはんやおかずの量など、自分で作るお弁当の具体的なイメージを作っていました。



弁当箱に詰めるって、意外と難しいな

子どもが作る”弁当の日”とは

弁当の日は、香川県で小中学校の校長を歴任された竹下和夫さんが始められたものです。

竹下さんは子供の成長に必要なものとして図のような三つの時間があると言っておられます。



子どもにとって一番基本で、一番長い時間が必要なのが衣・食・住といった「くらしの時間」です。でも昔に比べて圧倒的に不足しているのが現実です。そこで生まれたのが

「子どもが作る弁当の日」です。

弁当の日にはいくつかの約束があります。

- ①子供だけで作る…本来は買い出し、調理、片付けまで全て子供だけでやることになっています。
- ②事前の指導をする…家庭科等でしっかりと事前の指導をします。
- ③弁当の評価はしない…「完成度より自立」どんな弁当が出来たかより、どれだけ自分の力で出来たかが重要です。

岡見小の弁当の日は、竹下さんが提唱されている通りのものではありませんが、子供たちにとっては貴重な「くらしの時間の経験」になったのではないかと感じています。